

今回のテーマは 移住促進

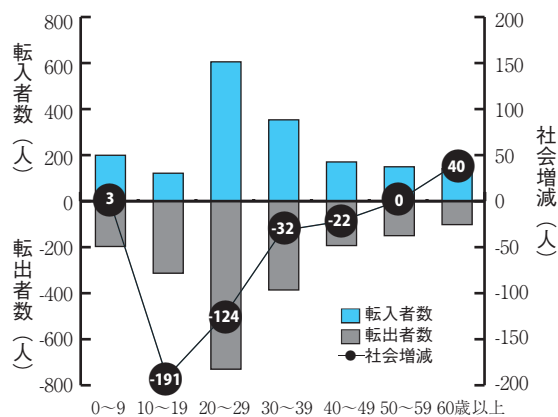
本市の人口動態を分析すると、平成26年の出生が408人に対して死亡が768人と自然減が大きいことがわかります。

その他10代、20代の若い世代が就職や進学で首都圏へ流出していることや、今後の推計では市街地よりも市街地以外の人口減少率が非常に大きいことが浮かび上がります。

一方、首都圏などの都市部では、地方への移住を検討する人が増えています。

可能な限り人口減少を抑制し、住みよい地域を維持するために、十和田市への移住・定住を推進します。

平成26年市の年代別社会増減



総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」から

移住、定住に有効な 施策のアイデアを募集します



市では、今年度から移住するかたの新築住宅費を補助するなど移住推進に取り組んでいますが、さらに移住を推進する取り組みを市民の皆さんから募集します。頂いた提案は、まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に活用します。

提出方法 (いずれかの方法で)

郵便・FAX・電子メール・持参

提出先 政策財政課 FAX④9616

電子メールseisakuzaisei@city.towada.lg.jp

提出期限 平成27年8月31日(月)

様式 自由

(住所・氏名・電話番号を記入してください)

※提案は十和田市総合戦略会議などで公表することがあります(個人情報は除く)。

※提案内容の確認のため、問い合わせをする場合があります。

移住促進

の取り組み



▲昨年、首都圏で移住相談・セミナーを開催しています。当市の紹介パンフレットを作成し、首都圏に向けて発信します。



◀昨年10月に実施した移住お試しツアー。10人の応募者が当市の様子を真剣に視察していました。

当市への移住者を 紹介します



はざわ ゆうすけ
羽沢 友佐さん

札幌のイタリアンレストランに勤務していたとき、素材に興味を持って就農を考えました。料理は10から100を、農業は1から10を作る仕事。

農業の研修後、農業施設を借りることができたので十和田に移住しました。土と水と人が良いのが十和田。災害が少ないことも助かっています。

PROFIFE

青森市出身。当市で新規就農した。主力はトマト。営農しながらCAFE orta (カフェオルタ) を開設し、自給の食材を中心にナチュラルフードを提供している。

「十和田市移住応援サポーター」 を募集します!



移住を考えているかた、お試して短期間移住するかたの身近な相談役として協力していただく移住応援サポーターを随時募集します。登録後、要請に応じて協力していただきます。資格や年齢などの条件はありません。

皆さんの応募をお待ちしています。

❖応募の方法

政策財政課備え付け、または市ホームページからダウンロードした申込用紙に記入の上、持参または郵送、FAXで提出してください。